

# 夢の稽古場



この文章が掲載される頃にはすでに公演は終わっているが、上演する「好男子の行方」の稽古は公演する劇場である「オメガ東京」で行っている。稽古場所として贅沢この上ないのだが、これはこれで制約があり、完全に自由に稽古場を使えるわけではない。だから、自前の稽古場を持っている劇団をつくづく羨ましいと思う。以下、勝手気ままにわたしの夢の稽古場の条件を挙げる。

- ① ゆったりとした広さがある。
- ② 朝から晩までいつでも自由に使える。
- ③ 使用料金が低価格である。

夢のようなことを言っているが、こういって稽古場があったらどんなにいいだろうと思う。しかし、これを実現するには物凄い知恵と物凄い金が必要である。簡単には決してできないことなのである。そして、知恵も金もない無力なわたしは、最終的には地域や国が演劇は人間にとつて必要なものであり、その文化を守るという姿勢を取らない限り、そんな稽古場はできないにちがいないとため息をつくことになる。いずれにせよ、よい稽古場があって、初めてよい作品は生まれるのは間違いないことのように思う。

時々、わたしはこんな夢想をする。横断歩道で大きな荷物を持って難儀しているお婆さんがいる。わたしはお婆さんが横断歩道を渡るのを手伝う。実はそのお婆さんは大金持ちで、そのお礼としてお婆さんはわたしが自由に使える稽古場を作ってくれるー。いや、そんな甘い夢想をしている場合ではない。わたしは「ここ」で戦うしかない。

高橋いさを

〈劇作・演出家〉